

川崎病研究報告

吉田 光昭（癌研究所）

川崎病と診断された4名の末梢血リンパ球を培養し3日毎に培養上清の逆転写酵素の活性を測定したがいずれも陰性であった。

特に1例についてはリンパ球をPHAで活性化しIL-2の存在下で培養し約3週間まで追跡したが有意な活性は検出されなかった。逆転写酵素の活性は培養上清を100倍に濃縮した後に測定しHTLV-1産生細胞の上清を陽性コントロールした。